

地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金への懇談会委員各位からのご意見のまとめ

事業	本事業における重要業績評価指標（KPI）	地方版総合戦略における基本目標及び数値目標	地方版総合戦略におけるKPI達成評価	懇談会各委員からのご意見		備考
	平成28年度における実績値			良かった点	そうでなかった点	
No.1 塩竈水産品 ICT化事業 (地方創生加速化交付金)	ア. (仮称) 塩竈水産商社の設立 (平成32年3月に1社設立) イ. 水産加工品生産高(事業開始時点553億円⇒567億円)	<p><b>【基本目標】</b> 人口減少に歯止めをかけるには、生活基盤となる「しごと」づくりが最重要課題となることから、職住近接が可能な本市における地域産業の強みを最大限に生かすとともに、本市の地域特性や地域資源の有利性を活用して起業の促進を図るなど、多様な就業機会を創出する。</p> <p><b>【数値目標】</b> 水産加工品生産高600億円</p>	有効性について評価できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は順調に進んでいる。</li> <li>・塩竈の水産品が国際評価や国内評価を得るための支援が必要である。</li> <li>・効率的に商流と物流を作るため、既存の販路を活用する当該事業の進め方が望ましい。</li> <li>・水産加工業者が減っている中で、生産高が震災以前の水準を超えていることは評価できる。</li> <li>・塩竈市の水産品の流通や、販路、非常に活性化の期待できる事業である。</li> <li>・各社各々ではできないことを、協議会方式で進めることで新たな販路を開拓しようというもので、みんなが集まってやることに意義のある事業。その中で、協議会方式でやることのメリットをより前面に出していくことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約4200万円の費用を投じている効果が見えない。</li> <li>・アメリカなど、地域を広げて商談会を行うべき。</li> <li>・外国の嗜好に合わせた商品の輸出を検討してもらいたい。</li> <li>・WEB上の商談や水産商社の立ち上げについて、整合性がわかりにくい。</li> <li>・今後存続していく仕組みとして機能させるのに、交付金が終了したのちの財源見通しに懸念がある。</li> <li>・設定した2つのKPIは、毎年度の事業の効果が見えないため、適切なKPIではないと捉えられる。この2つのKPIを補足するKPIの設定を行うこと。WEBサイトのアクセス数など定量的で、事業の進捗を裏付ける客観的な指標の設定を検討してもらいたい。</li> <li>・個々の取組につながりをもたせること。</li> </ul>	各KPIと事業による効果を結びつける指標がないため、評価を行うことができないというご意見を踏まえ、今後、事業の進捗や効果を裏付ける客観的な指標を設定し、改善しながら事業推進を行ってまいります。
	ア. 準備期間 イ. 調査中					

事業	本事業における重要業績評価指標 (KPI) 平成 28 年度における実績値	地方版総合戦略における基本目標及び数値目標	地方版総合戦略における KPI 達成評価	懇談会各委員からのご意見		備考
				良かった点	そうでなかった点	
No.2 塩竈アフター スクール事業 (地方創生推進 交付金)	<p>ア. 市内在住女性の就業者数 イ. 市内在住女性の一人あたりの年収額 ウ. 平成 28 年度：ニーズ調査の実施 平成 29・30 年度：アフタースクールセンターの設立・事業開設数</p> <p>イ. 事業開始時点 2,074 千円⇒2,096 千円 ウ. ニーズ調査の完了</p>	<p>【基本目標】 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる(結婚・子育ての希望の実現)</p> <p>【数値目標】 ①年少人口比率 10.8% (平成 26 年度) →9.8% (平成 31 年度) ②年間出生数(平均) 330 人(平成 22 年～26 年平均数値) →350 人(平成 27 年～31 年平均数値)</p>	有効性について評価できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター間で、相手となる領域、分野が被ることもある。情報共有、役割分担をしながら、機能を充実させることが望ましい。</li> <li>・魅力的な事業である。官民連携のいい形。塩竈市の目玉事業となり得る。継続してもらいたい事業である。</li> <li>・センター機能を民間委託業者に任せすぎず、行政側で適切に統制すること。</li> <li>・子どもの人間性を育むことのできる可能性のある事業である。その点について指標化できないか検討してほしい。</li> <li>・前段のニーズ調査も行っており、福祉的側面と教育的側面に分け、市側の所管について整理されていて良い。</li> <li>・事業が軌道に乗ることで、地域力が上がり、子どもを安心して育てられるまちとなれば、人口減少の解消、雇用創出が期待できる。PR 方法について、情報発信の仕方を検討してもらいたい。</li> <li>・単に子の居場所づくりに止まる事業ではなく、様々なつながりができる事業となり得る。それらによって地域力が上がっていく。その視点を持って事業を進めてほしい。</li> <li>・地域のお年寄りとのふれあいの機会を作ってはどうか、検討していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した KPI の定義を示すこと。</li> <li>・センター機能をどこに持たせるか検討すること。</li> <li>・各子どもの居場所づくり事業の運営は容易ではない。交付金終了後も見据え、運営方法を検討すること。</li> <li>・KPI との関連が不明確。事業の進捗を裏付ける客観的な指標の設定を検討してもらいたい。</li> <li>・親からの評価や子からの評価などを指標とすることを検討すること。</li> <li>・わくわく遊び隊などの、その居場所にいる子どもたちがどう感じたのかを情報収集する必要がある。</li> <li>・事業の概要は、あくまで子どもに対しての事業としている。その次に女性の就労等となっており、まずは、子どもへの支援であるということがわかる KPI を設定するべき。</li> </ul>	各 KPI と事業による効果を結びつける指標がないため、評価を行うことができないというご意見を踏まえ、今後、事業の進捗や効果を裏付ける客観的な指標を設定し、改善しながら事業推進を行ってまいります。